

2020 年度土木学会関西支部地域活動賞 応募用紙

提出 令和2年 9月 17日

ふりがな	はんしんあわじだいしんさいのけいけんでんしょうとぼうさいけいはつひさいちしえんかつどう
授賞対象となる活動名称	阪神・淡路大震災の経験の伝承と防災啓発・被災地支援活動
活動実施者名または団体名	神戸防災技術者の会 (K-TEC)
主な活動地 (府県・市町村)	兵庫県神戸市

活動内容、活動実績および特筆すべき事項等

1. 活動の内容

阪神・淡路大震災から 10 年目を迎え復旧・復興が一段落した平成 16 年に、震災時神戸市長であった笹山幸俊氏の発案により、神戸防災技術者の会 (K-TEC) を設立することとなった。神戸市職員と OB が震災の経験と復旧・復興のノウハウを伝承するとともに、防災啓発や被災地支援活動を行うために集まった任意団体である。関西地域は活断層が密集し今後も直下型地震の発生が心配される地域であるとともに、近い将来南海トラフ地震が発生する可能性が高く、大規模災害への備えが極めて重要であると考え、その活動を継続させてきたものである。

具体的には、大学や小・中・高等学校などの学校関係をはじめ、地域の自主防災組織からの要請に応じて講師を派遣し、震災の経験や防災の重要性などについて講演を行っている。神戸市の若手職員研修や JICA 研修等への協力も行っている。また関西地域を中心に全国の自治体の職員研修や地域防災計画見直しなどに際し、阪神・淡路大震災や水害の体験を語ると共に、自然災害から住民を守るための備えの大切さを伝えている。

更には、全国の中・高等学校の修学旅行生に対し、震災の遺構等を巡る街歩きやゲーム形式での災害の疑似体験など「神戸で学ぶ防災学習」を展開し、関西圏に修学旅行生を招致することにも貢献している。

また過去の経験やノウハウを伝承するだけではなく、新たな知見を基に今後の関西での大災害に備えた活動ができるよう、毎月講師を招いて定例会を開催し、情報収集や意見交換等を行い、自らのレベルアップにも努めている。

2. 活動実績

① 自治体・学校 (大学、小・中・高校) 等への伝承・防災啓発活動

- ・平成 30 年度 : 36 団体 延べ 60 回 約 3,900 人に伝承
- ・令和元年度 : 30 団体 延べ 51 回 約 3,700 人に伝承
- ・総合計 (平成 16 年度～令和元年度) : **397 団体 819 回 約 50,700 人** に対し活動を実施
- ・上記には、修学旅行生の防災学習を含む他、過去に土砂災害があった場所の被災痕跡を巡り治山の歴史を学ぶイベント「布引の災害史を歩く」等、幅広い活動が含まれている。

② 東日本大震災の被災者・被災自治体への支援活動

東日本大震災後、平成 15 年に被災自治体職員を神戸に招き、4 泊 5 日のセミナーを実施。平成 16 年にも合計 3 回のセミナーを継続実施。区画整理事業の実務的なノウハウや住民説明等の経験など、神戸の復旧・復興過程で上手くいったこと、上手くいかなかったことなどを体験に基づき具体的に伝え、参加者からは、復旧・復興のイメージができたとの評価や復旧・

復興事業の早期着手につながったとの感謝の言葉をいただいた。その後も被災地との交流を継続し、昨年第5回の交流会を開催、その後の復興事業の進捗等に関するアドバイス・意見交換等を続けている。こうした活動によって得られた知見は、今後の関西での大規模災害時にも大いに活かされるものと考えている。また、彼らからは南海トラフ巨大地震等関西で大規模な災害が発生した時は、いち早く支援に駆け付けると心強い言葉もいただいている。

③ 定例会での防災学習（外部講師等を招いての講演会等実施）

- ・毎月第2火曜日 18:15～21:00 に開催 会員 20～40 名程度が参加
 - * 令和2年4月現在の会員数は139名（現職：94名 OB：45名）
- ・平成16年7月設立以来、新型コロナ禍以外休止せず、令和2年8月に**第192回目を開催**
- ・令和元年度の定例会の講演内容（分類して一部を紹介）
 - 1) 阪神・淡路大震災直後の対応の再整理・・・「避難所や仮設住宅（中央区の事例を主に）」「阪神・淡路大震災における神戸経済：震災時対応と復興対策」など
 - 2) 他都市、海外の被災地の事例研究・・・「倉敷市真備町の豪雨災害現地調査の報告」「東日本大震災被災地調査の報告」「神戸と台湾集集地震被災地の交流会」など
 - 3) 防災に関する知識・情報の収集・・・「地域と災害～地域づくりの基礎知識」「最近の気象現象の傾向と防災気象情報」など

④ 図書の発刊

- ・「伝承 阪神・淡路大震災 ～われわれが学んだこと～」
- ・「東日本大震災 被災地レポート ～視た・聴いた・学んだ～」
- ・「東日本大震災被災地調査・交流 記録誌」 ・「熊本地震現地調査 記録誌」
- ・「復興まちづくりセミナーin神戸 報告書」 ・「震災復興交流神戸セミナー 報告書」等

3. 特筆すべき事項

① 被災自治体職員の責務としての伝承活動

未曾有の大災害を経験し、その復旧・復興活動に携わった自治体職員として、その経験等を後世に語り継ぐ責務があると感じる職員・OBによる活動である。

② 幅広い専門分野の会員の集まり（発足時は笹山氏をはじめ土木学会員がリーダーとなり結成）

発足当初は土木、建築、造園の集まりだったが、活動を継続するうちに事務、消防、保健、設備も含めた幅広い分野の職員が集まるようになった。また、実際に東日本大震災や熊本地震等の被災地支援に派遣された職員なども参加しており、阪神・淡路大震災だけではなく、その後の我が国での大災害全般を踏まえた幅広い知識・ノウハウの伝承ができる団体に成長してきている。

③ 震災の遺構や被災部保存施設等を活用した神戸での防災学習

街歩きによる防災学習は、被災者鎮魂のモニュメントや橋梁・港湾等の土木構造物に関する被災部保存施設等を実際に見て、地震の怖さ・破壊力のすごさ等を実感できるため、分かりやすく印象に残る防災学習となっている。

④ 明治以降の街づくりにおける土木技術者のたゆまぬ努力を説明

明治以降の神戸の発展、具体的には旧外国人居留地の建設、生田川の付け替え、六甲山の治山・治水、神戸港や人工島の築造等、神戸の街の建設の歴史についても紹介している。単に震災のことを学ぶだけでなく、明治以降脈々と続いてきた先輩土木技術者たちの街づくりの努力、戦災や震災を乗り越え復興を成し遂げてきた不屈の精神についても感じ取ってもらえるよう心掛けている。

添付資料 1-1 : 活動状況写真①



JICA 研修



神戸市職員研修（係長級）



他都市職員研修（和歌山県海南市：職員研修と地域防災計画見直し支援）

添付資料 1-3 : 活動状況写真③



中学生・高等学校生に対する防災学習支援（防災学習ゲーム：クロスロード）

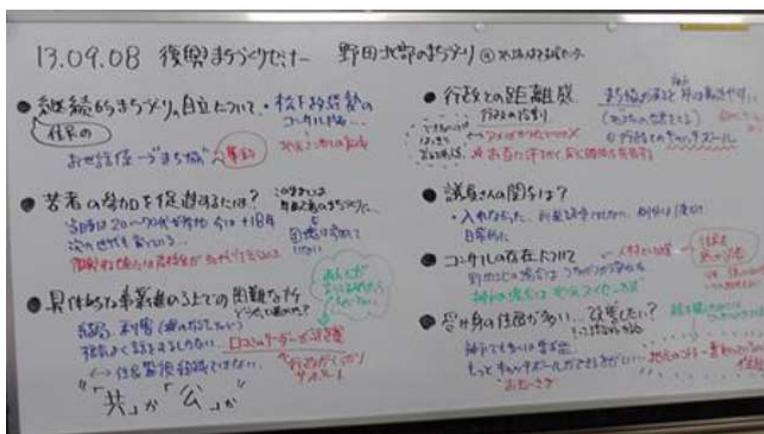


地域の防災セミナー



震災技術展におけるシンポジウム（神戸防災技術者の会主催）

添付資料 1-4 : 活動状況写真④



第1回復興まちづくりセミナー in 神戸 ～東日本大震災被災自治体職員と共に学ぶ～



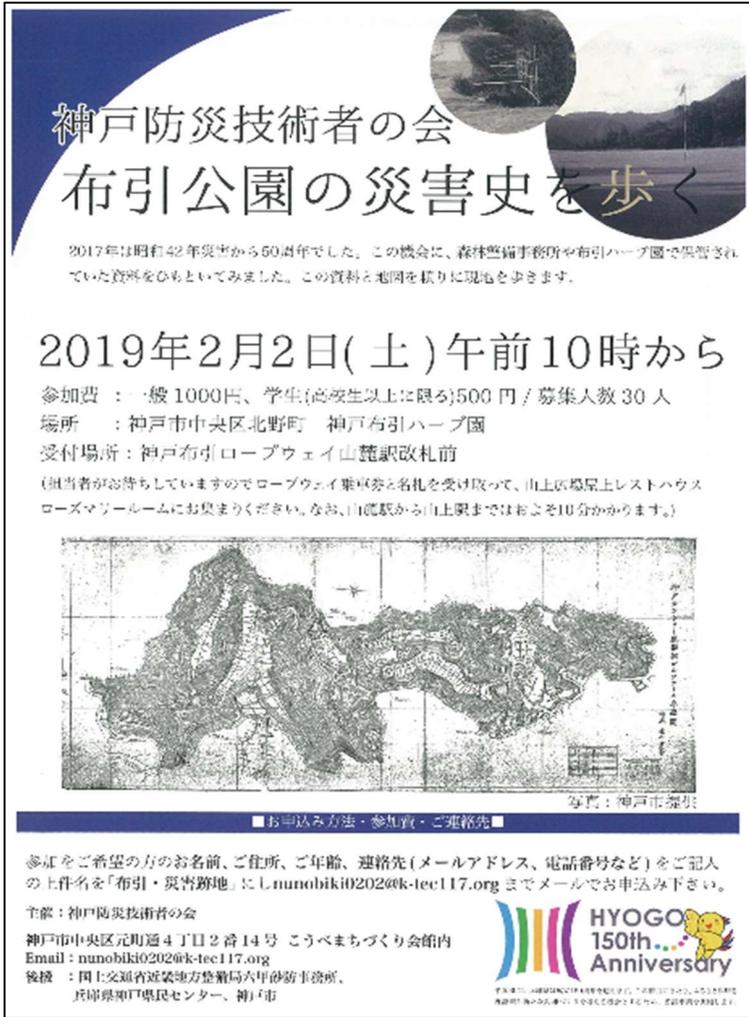
東日本大震災被災地自治体職員との「ふっこう交流会」：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館会議室



他都市職員研修（東京都八王子市）

建設業協会研修（長野県松本市）

添付資料 1-5 : 活動状況写真⑤



神戸防災技術者の会
布引公園の災害史を歩く

2017年は昭和42年災害から50周年でした。この機会に、森林整備事務所や布引ハーブ園で保管されていた資料をひもといてみました。この資料と地図を携りに現地を歩きます。

2019年2月2日(土) 午前10時から
 参加費：一般 1000円、学生(高校生以上に限る)500円 / 募集人数 30人
 場所：神戸市中央区北野町 神戸布引ハーブ園
 受付場所：神戸布引ロープウェイ山麓駅改札前
 (担当者がお持ちしていますのでロープウェイ乗車券と名札を受け取って、山の上の展望上レストハウスローズマールームにお集まりください。なお、山麓駅から山上駅まではおおよそ10分かかります。)

写真：神戸市探検

■お申込み方法・参加費・ご連絡先■

参加をご希望の方のお名前、ご住所、ご年齢、連絡先(メールアドレス、電話番号など)をご記入の上件名を「布引・災害跡地」にしnunobiki0202@k-tec117.org までメールでお申込み下さい。

主催：神戸防災技術者の会
 神戸市中央区元町通4丁目2番14号 こうべまちづくり会館内
 Email: nunobiki0202@k-tec117.org
 後援：国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、
 兵庫県神戸県民センター、神戸市

HYOGO 150th Anniversary

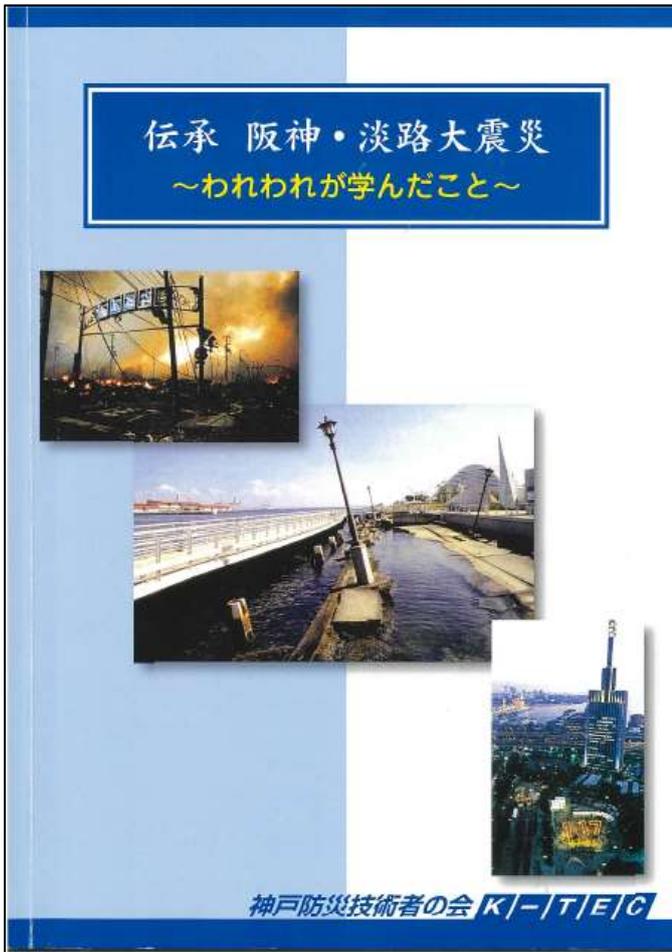


土砂災害と治山の歴史を学ぶイベント
 ～講演会の後、現地（布引・市ヶ原）の被災痕跡を巡る参加者～



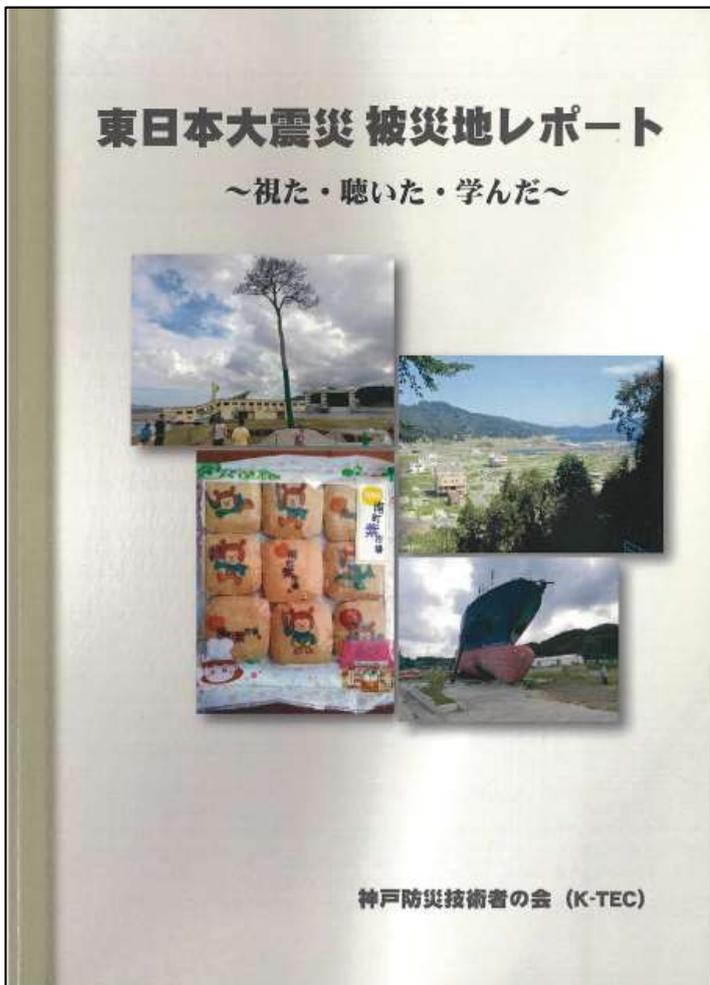
定例会（毎月第2火曜日に開催）

添付資料 2-1：発刊図書（表紙と目次）①



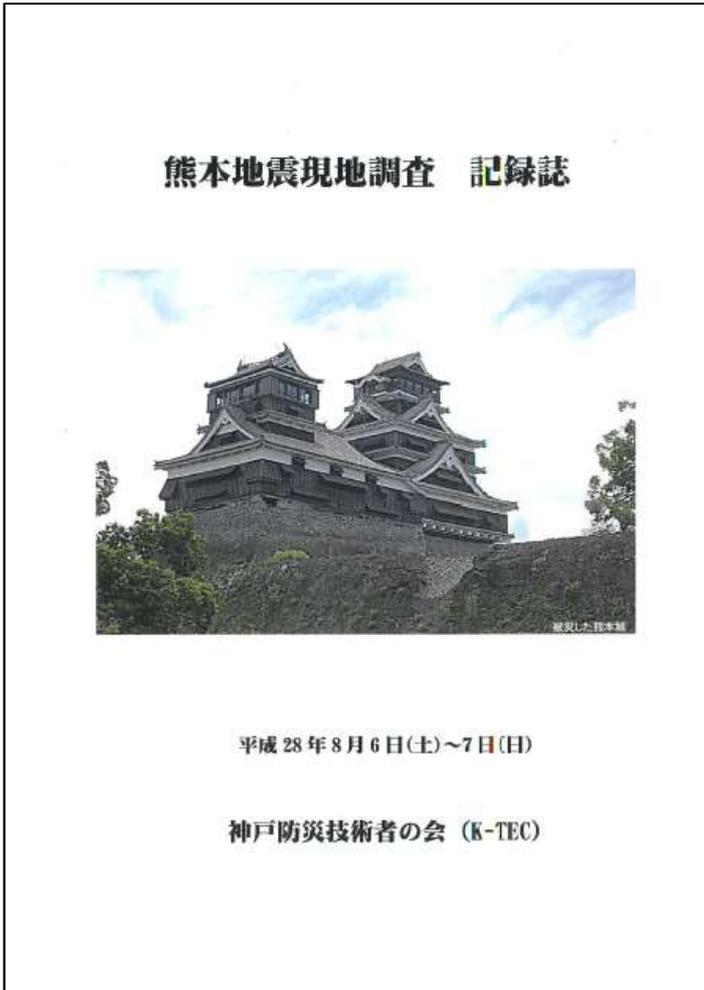
目 次

1. 「神戸防災技術者の会」の阪神・淡路大震災の伝承事業として	3
2. なぜ神戸市は都市直下型大地震に襲われたのかー近未来に備えてー	
2-1 阪神・淡路大震災とはどのような地震であったのか	10
2-2 起こりうる東南海・南海地震と大都市直下型地震への備え	26
3. 阪神・淡路大震災による被害と復旧・市民生活への影響	
3-1 災害対策基本法・震災復興本部・復興計画・災害報道	34
3-2 震災による人的被害と被災者の健康管理	44
3-3 震災による火災発生メカニズムと消火活動の困難さ	55
3-4 建物倒壊の被害状況とその主な要因	69
3-5 都市施設（道路・高速道路・鉄道・港湾）の被害と復旧までの市民生活・経済活動への影響	80
3-6 公的施設（市役所・学校・病院・警察）の被害と影響	95
3-7 ライフライン（上水道・電気・ガス）の被害と被災者生活への影響	105
3-8 ライフライン（下水道）の被害と被災者生活への影響	120
3-9 経済活動の被害と経済復興の困難さ	135
4. 震災被災者の生活再建に行政が何ができただけ被災者支援事業	
4-1 区役所での支援事業一救授物資・避難所開設・り災証明・義援金等一	147
4-2 応急仮設住宅の建設と被災者支援	162
4-3 地域産業の復興支援策	175
4-4 震災復興住宅の建設と入居後の支援活動	189
5. 被災した街はどのように復興していったかー震災復興まちづくり事業ー	
5-1 震災復興事業の政策過程と復興まちづくりの仕組み	201
5-2 住宅再建の課題と問題点	216
5-3 震災復興まちづくり事業1（震災復興再開発事業）	225
5-4 震災復興まちづくり事業2（震災復興土地区画整理事業）	238
5-5 震災復興と緑のまちづくりー市民との協働ー	253
5-6 住民主体の復興まちづくりの仕組みと事業の実例	264
5-7 阪神・淡路大震災から学ぶ危機管理	277
執筆者及び編集員名簿	290



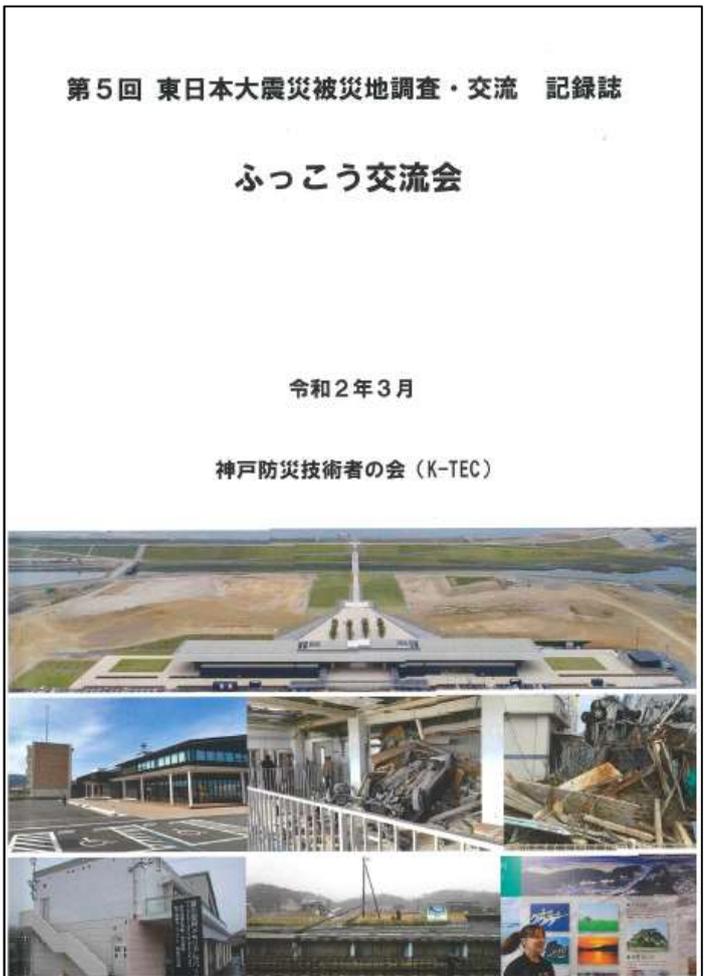
目次：	項 目	記録担当	頁
第Ⅰ部	訪問地の記録		
1.	釜石の奇跡（釜石東中学校他）	若松	5
2.	大槌町（赤浜、安渡、町役場）	（全般）片瀬 （赤浜）浜田 （安渡）西	7 14 18
3.	釜石市内	若松	21
4.	大船渡市古浜	太田	25
5.	陸前高田	松下	29
6.	気仙沼	浜、太田（一部）	35
7.	南三陸 （ホテル観洋）	（全般）中山 田中	39 47
	（震災記憶：高野会館の保存）	松岡	50
8.	石巻近辺（古浜、大川小、女川町、市街地）	広藤	53
9.	仙台市内（宮城野区、若林区）	吉田	59
10.	名取市	小谷	65
第Ⅱ部	テーマ別事項		
1.	東日本被災地の海岸防災について	松下	69
2.	「まちづくりと護岸」	太田、西、浜田	72
3.	海岸林について	松岡	75
4.	釜石市・鶴住居地区と石巻市・大川地区	広藤、若松	79
5.	震災遺構の保存と公園	松岡	81
6.	仙台と名取（荒浜と関上）	吉田、小谷	83
7.	支援と受援について（水道編） （下水道編）	松下 永木	87 91
8.	東日本被災地における「災害ツーリズム」について	松下	95
	コラム		
	おらが大槌復興食堂で昼食	太田	13
	2004年12月26日スマトラ沖大地震震災津波災害	浜田	17
	プレゼント	内田	17
	東北被災地視察の感想	橋本	20
	「私の3月11日は」	片瀬	28
	その後の一本松	松岡	34
	気仙沼とは「かつおつながり」～高知県黒潮町職員の手ハシ～	浜	37
	東日本大震災現地視察・雑感	倉橋	52
	阪神淡路大震災の余震	片田	74
	東日本大震災被災地視察で思ったこと	西川	86

添付資料 2-2 : 発刊図書 (表紙と目次) ②



目 次

はじめに・行程表・調査箇所 位置図	1
1、平成 28 年熊本地震について	4
2、熊本市西区のマンション倒壊現場	6
3、熊本城の被災状況と復旧への取組み	8
4、益城町の被災状況～木造建築物を中心に～	10
5、益城町の被災状況～鉄骨造及び鉄筋コンクリート造建築物を中心に～	15
6、公共施設(特に庁舎建築物)の被害と安全性	17
7、益城町の軟弱地盤	19
8、益城町堂園の横ずれ断層	22
9、益城町の応急仮設住宅団地	24
10、大規模な土砂災害と砂防堰堤	26
11、南阿蘇村 学生アパートの被害	29
12、通潤橋の被災状況と復旧について	31
13、旧薩摩街道沿いの液状化現象	33



目 次

はじめに	1
コース図	3
行程表	4
1、「ふっこう交流会」報告	7
2、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	16
3、気仙沼市大浦地区高台移転地視察と移転者意見交換	19
4、気仙沼市漁業施設復興状況視察と 漁業・水産加工関係者との意見交換	23
5、陸前高田市、南三陸町、石巻市大川小学校跡地	28
6、東松島市野蒜ヶ丘の視察と高台移転された住民との意見交換	29
7、旧野蒜駅訪問(震災復興メモリアルパーク)	32
8、七ヶ浜町視察&住民との意見交換	35
9、宮城県山元町 新役場庁舎視察と 「ふるさとおもだか館」での被災者との出会い	40
10、檜葉町復興状況・復興計画ヒヤリング	43
11、檜葉町 帰還された住民との懇談	47

添付資料3：パンフレット



いつ
どこで
どんな

「聴いて」「見て」そして「備える」

神戸に暮らす私たちにとって、阪神・淡路大震災が発生した1995年1月17日は忘れることのできない日です。神戸市内だけでも4,571名の犠牲者、11万棟余りの全壊・全焼した街の中で、避難所や仮設住宅での厳しい生活から、被災者自らが立ち上がり、被災した市民が被災者を助けながら、生活を再建し、今の神戸に再興しました。私たちは、震災を経験し、こんな備えをしておけば良かった、こんなケアをすれば良かった、そして今後はこんな備えが必要だということをよく学びました。これらの教訓を次世代に伝えるために、神戸の経験を聴いてもらい、見てもらい、そして、どんな災害に遭っても生き抜くための備えを学んでいただきます。



1995.1.17

神戸防災技術者の会 (K-TEC) 神戸すまいまちづくり公社

●プログラム

▶プログラムは、ご希望内容、人数、時間に合わせ、打合せを行いながら決定します。
▶160人を超える受入の場合はご相談ください。

聴く 座学



●スライド学習
阪神・淡路大震災で神戸はどのような被害を受けたのか、避難所や仮設住宅でどんな助け合いがあったのか、そして、今後どのような備えをして被害を少なくするのかを、スライドや映像を交えて学びます。(45分～60分)



●再現実験
地震で起こる液状化現象や建物を強くする耐震補強の実験を模型を使ってわかりやすく再現します。(10分)

見る まち歩き



●震災遺構まち歩き
神戸港震災メモリアルパークや破壊された橋脚など地震のエネルギーを物語る遺構や、商店に残された人々の想いを物語るモニュメントを見ながら、現在の神戸のまち（主にメリケンパークから神戸市役所南側の東遊園地までの範囲内）を歩きます。旧居留地や南京町などを含めた観光まち歩きも可能です。(60分～90分)

備える 疑似体験

●災害対応ゲーム「クロスロード」
YES/NOの選択から、震災を疑似体験します。
あなたは・・・資料担当の職員。被災から数時間、選所には5,000人が避難しているとの確かな情報が出た。現時点で確保された食料は2,000食。以降の経過は今のところなし。まず、2,000食を配る？
(出典：復興庁「震災対応ゲームクロスロード」)

この問題にあなたはどのような選択をしますか？
災害が発生したときはシレンマを伴う決断の連続です。自分ならどういう選択をするかをカードゲームで考えます。少人数のグループに分かれ、それぞれ「YES」と「NO」のカードを1枚ずつ持ちます。問題に対してどちらかのカードを一枚出し、その選択の理由を伝えます。1つの正しい答えがあるわけではなく、他の人が「なぜ、そう考えたのか？」に耳を傾け、自分とは異なる意見があることに気づくことができます。(60分～90分)

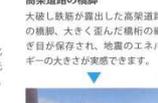
「クロスロード」は、チーム・クロスロードの著作権者である復興庁の許可を得て、詳しくは「復興庁」のウェブサイト「クロスロード」の「お問い合わせ」ページをご覧ください。

タイムスケジュール例

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
午前の場合	座学	まち歩き または クロスロード	昼食(南京町)	人と防災未来センター または 会場：市内の会議室	人と防災未来センター または 会場：市内の会議室	座学	まち歩き または クロスロード	神戸観光 夕食など
午後の場合				人と防災未来センター II	昼食(南京町)	座学	まち歩き または クロスロード	神戸観光 夕食など

●まち歩きモデルコース

距離 約2.0km
所要時間 約90分



●出前学習

▶神戸港クルーズの船上や宿泊先に講師を派遣し、昼食や夕食後の時間に、防災学習を行うことも可能です。

その他のまち歩きスポット ▶モデルコースにその他のスポットを加えることも可能です。



南京町
中津街。比較的被害が少なかったため、震災後、いち早く吹き出しを行い、被災者を応援しました。



旧居留地
被災した近代建築は外壁保存などで再建し、街並みを継承しています。



神戸港めぐり遊覧船
壊滅的な被害から2年で復旧した神戸港全体を堪能できます。「1.17のつどい」は、毎年、順に見る東遊園地で行われています。



神戸市役所展望ロビー
高さ約100mの展望ロビーから復旧した神戸のまちが見渡せます。「1.17のつどい」は、毎年、順に見る東遊園地で行われています。

●対象

▶修学旅行生（小学生・中学生・高校生）、大学生・ゼミ、研修・視察（自治体職員・教職員・社員・自治会など）

●料金

▶座学：講師1人10,000円（生徒80人につき講師1人）
▶まち歩き：講師1人5,000円（生徒20人につき講師1人）
▶クロスロード：講師1人10,000円（生徒80人につき講師1人）
▶会場費：座学、クロスロードは市内の貸会議室を使用します。使用料をご負担下さい。予約は当方で行います。
▶出前学習：講師派遣料20,000円、交通費（実費）
生徒80人で座学とまち歩きを行った場合
座学：講師1人 @10,000円 ×1人 = 10,000円
まち歩き：講師4人 @5,000円 ×4人 = 20,000円
合計 30,000円

●申込みから受入までの流れ

- ① 空き状況の確認 ▶電話で空き状況をご確認ください。(080-2518-2236)
- ② 申込み用紙の提出 ▶防災学習申込み用紙に必要事項を記入し、Eメールにてお送りください。
※神戸市防災技術者の会 (K-TEC) のホームページからダウンロードできます。
- ③ プログラムの打合せ ▶申込み用紙の内容にもつづき、プログラム案を提示いたします。プログラム案をもとに電話等で打合せを行い、プログラムを決定します。
- ④ 防災学習実施 ▶到着までの連絡体制を確認し、防災学習を実施します。

●プログラムの打合せ、当日の運営は「神戸防災技術者の会 (K-TEC)」が行います
神戸防災技術者の会 (K-TEC) とは・・・
神戸市職員とOBで組織し、阪神・淡路大震災での市民の救護及び、まちの復興業務などで培われた経験や、復興・復興に関する技術、制度を伝承し、また被災地の支援活動や防災・減災に関することを学び、安全・安心な地域・都市づくりに貢献することを目的としている団体です。

●神戸で学ぶ防災学習連携団体
阪神・淡路大震災の記憶と教訓を伝える活動は様々な団体・施設と連携し実施しています。
人と防災未来センター/神戸すまいまちづくり公社/ふたば学舎/認定NPO法人まち・コミュニケーション/賢田北ふるさとネット/神戸防災技術者の会 (K-TEC)

●申込み・問合せ先

神戸防災技術者の会 (K-TEC)

〒654-0036 兵庫県神戸市須磨区南町2丁目1-24
HP: <http://www.k-tec117.org/>

TEL : 080-2518-2236 (神戸防災技術者の会)
E-mail : kura-ma@leto.eonet.ne.jp

